

2005 年夏期国際環境協力ワークキャンプ報告 (PP・ピサノローク、PS・コンケン)

2005 年 8 月 8 日より 8 月 29 日にかけてタイ国ピサノローク県、コンケン県において国際環境協力ワークキャンプ・プログラムプランニングおよびプログラムサポーティングを実施しました。プログラムプランニング参加者は農家ステイを通して得た経験・情報に基づいて、国際環境協力プログラムを計画・立案しました。プログラムサポーティングでは塩類土壌の修復保全、堆肥化の推進に関する現地活動の補助等を通して、NGO 活動の最前線を体験して頂きました。また、現地農家への体験ステイ、各種見学等のバラエティに富んだ体験を通して、参加者の皆様にはタイ国における国際環境協力の意義について理解を深めて頂きました。プログラムプランニングおよびプログラムサポーティングの概要と参加者の声を紹介いたします。

1. プログラムプランニング・ピサノローク

(1) 実施期間

2005 年 8 月 8 日～2005 年 8 月 23 日(16 日間)

(2) 参加者

萩原踊介会員、井上咲子会員、小笠原亜奈会員、尾上夏子会員、塚本昌孝会員、若井俊宏会員(6 名)

(3) スケジュール

8 月 8 日

午後：Phitsanulok 空港集合
大型スーパー Big C にて買い出し
ERECON ハウスにて宿泊

8 月 9 日

午前：東南アジア事務局にてタイ語・文化レッスン
午後：タイ語・文化レッスン継続
Phitsanulok 県 Bangrakam district、Bangrakam sub-district、Khlung Nam Yen 村着
農家ステイ



8 月 10 日～8 月 12 日

Khlung Nam Yen 村にて農家ステイ、国際環境協力プログラムの調査・計画・立案等

8 月 13 日

午前：プログラムサポーティング・ピサノロークに合流
Ban Khlung Nam Yen 小学校生徒との交流会
午後：Phitsanulok 県内学校訪問、堆肥作成農家訪問
農家ステイ

8 月 14 日

午前：スコタイ歴史博物館(Sukhothai Historical Park)訪問
(ワット・サ・シー(Wat Sra Sri)、ワット・マハター(Wat Mahathat)、ワット・シー・サワイ(Wat Sri Sawai)等見学)

午後：農家ステイ

8 月 15 日～21 日

Khlung Nam Yen 村にて農家ステイ、国際環境協力プログラムの調査、計画、立案等



8 月 22 日

午後：農家ステイ終了、Phitsanulok 市街に移動
ERECON ハウスにて宿泊

8 月 23 日

午前：東南アジア事務局にて国際環境協力プログラムの発表準備等
午後：国際環境協力プログラムの発表、ディスカッション
修了式
Naresuan 大学内 Textile 博物館訪問、買い物等
Phitsanulok 空港にて解散

(4) ワークキャンプ参加者の声

1) キャリアアップ(萩原踊介 会員)

海外旅行経験は少なくない自分では思っている。しかし、旅行はあくまでも旅行であって本当に異文化を知り、働くことの意義を知るまでには至らなかった。将来海外に出て働くのならばきちんと形に残る海外経験をする事が必要だと感じ、今回のワークキャンプに参加した。農村で生活することでその目的はかない達成されたと思う。全体的に今回の参加は成功であった。最後にお世話になったスタッフの皆さんにお礼申し上げます。

2) 農家ステイの経験を経て(井上咲子 会員)

プログラムプランニングの参加者 6 人は各自の知識や経験を持ち寄り、様々な意見交換を通して 1 つのプランを作成出来たと思います。そこには村の人々の協力が不可欠であり、言葉も上手く通じない私たちに何回も教えてくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。

3) フィールドワーク(小笠原亜奈 会員)

このキャンプで「協力」とは何かについて考えさせられた。貧困とも言えないし、裕福とも言えない村だったので、どこを改善すべきなのか非常に難しかった。調査の目的・内容・手段を村人に伝えるのも難しかったが、来年以降につながるキャンプになったと思う。お世話になった村人やスタッフの皆さんに感謝したい。

4) Khlung Nam Yen village に出会って(尾上夏子 会員)

以前からアジアにおける有機農業の普及に興味を持っていました。念願がかなない現物にふれることができたのは大きな喜びであり、周りの皆さんに感謝しています。いろいろな側面でその普及の難しさ、また可能性を肌で感じることができました。それ以上に、この数日間の村での滞在は自分が日本人であることを忘れるほど楽しめ、毎日何かが起き、行動し、ワクワクしていました。積

極的に交渉する力も身についたと思います。この経験を一生の糧としていきたいです。



5) ワークキャンプ参加(塚本昌孝 会員)

パンフレットの教師参加を見て申し込みましたが、当地に来て13日間、プログラムプランニングを行って、6人の力で素晴らしいプランが出来て満足です。9月に学校に帰って、後はいかにこの印象を伝えるかが残されています。最後に、有意義なキャンプを企画して下さいましたスタッフの皆さんにお礼申し上げます。



6) タイ人と私(若井俊宏 会員)

タイ人は深く物事を考え過ぎず、いつもニコニコしていて、気のいい人が多いと思う。それは、日本で暮らしていると忘れがちであるが、少なくとも自分にとってはとても大切なことであると再認識できた。日本に帰っても、このペースをくずさず生活したいと強く思う。そしてまたタイにきたい。お世話になった皆さん、ありがとうございました。

2. プログラムサポーター・コンケン

(1) 実施期間

2005年8月24日～2005年8月29日(6日間)

(2) 参加者

金子京平会員、工藤亜希子会員、村松優里香会員、大坪雄司会員、齊藤はるか会員、高橋直也会員(6名)

(3) スケジュール

8月24日

午後：Khon Kaen 空港集合、大型スーパーBig C にて買い出し
Khon Kaen 市内 Srikoon ホテルにて宿泊

8月25日

午前：塩害が特に深刻なKhon Kaen 県Phra Yun district, Kham Pom sub-district, Nong Thung Mon 村着
ワークショップ等開催(塩類土壌の修復保全に関する講演、有機農業の推進による持続的な農業生産環境の構築に関する意見交換会、寄贈したペレット堆肥作成機による農家のペレット堆肥づくり実演、奨学金および寄付文

房具授与式等)

午後：Nong Thung Mon 村においてフィールド活動(掘下・盛土方式 + ジオテキスタイルの適用、耐塩性樹木(アカシア、ニーム)の植林、食害防護フェンスの補修等)
農家ステイ



8月26日

午前：Nong Thung Mon 村農家における塩害対策試験の協働作業

午後：耐塩性樹木植林地の測量・土壌調査、堆肥づくり推進のための個別訪問・現地農家との協働作業

Khon Kaen 大学キャンパス見学、Big C にて夕食・買物、Srikoon ホテルにて宿泊

8月27日

午前：有機農業プログラムを実施しているKhon Kaen 県Nong Rua district, Kudkwang sub-district, Nong Phai 村着
ペレット堆肥作成機等の寄贈、炭焼き見学、蘭栽培農家見学等

午後：Dinosaur 博物館見学、Nong Phai 村にて堆肥材準備
農家ステイ

8月28日

午前：Nong Phai Dusitprachasan 小学校にて有機農業ワークショップ開催(Nong Phai 村農家による有機農業に関する講演、堆肥づくり、ペレット堆肥づくり実演等)

午後：Nong Phai Dusitprachasan 小学校生徒との交流会
Khon Kaen 女性織物グループ(Prae Pan)店舗訪問・買物
ナイトブラザにて夕食、タイ古式マッサージ体験
Srikoon ホテルにて宿泊

8月29日

午前：修了式

午後：Khon Kaen 空港にて解散



(4) ワークキャンプ参加者の声

1) 文化交流の大切さ(金子京平 会員)

村で一緒になって遊ぶ、ご飯を食べる。そして信頼関係を共に築き上げる。文化交流あつてのボランティア だということを強く感じました。短い間でしたが、私にとっても農家の方々にとっても良い思い出ができたと思います。お世話になった方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

2) 実際の現場での作業に触れて(工藤亜希子 会員)

大学では土壌工学を専攻しました。もちろん塩害についても学んだわけですが、それは、塩害のメカニズムについてだけでした。今回このワークキャンプに参加して、実際の対策についても考える機会が得られてとても興味深かったです。また、堆肥についても少なからず知識を広げられたことを嬉しく思います。村の人々とも楽しく遊ぶことができ、とても楽しいワークキャンプでした。ありがとうございました。



3) 助け合い(村松優里香 会員)

私がこのワークキャンプで目にしたのは、国際協力という堅い言葉よりも、人と人との助け合いという言葉が染む温かいものでした。内容は科学的かつ計画的に準備されたものですが、対話を基本としたプログラムは現地の方との信頼関係を築いていました。中でも ERECON の活動をきっかけに自発的に有機農業を推進し、経済的成長も遂げている Nong Phai 村は、国際協力の成功例だと思います。ワークキャンプに参加する前の私は国際協力の難しさを痛感する知識ばかりを得て意気消沈していたため、このキャンプはやる気を取り戻すきっかけになりました。最後に色々とお世話を見てくださったスタッフの皆さんにお礼申し上げます。

4) 経済学部2年の私(大坪雄司 会員)

環境問題に取り組むのは、やはり理系の人なのかなと考えることが多くなっていました。でも、ワークキャンプを通じて、文科系も理系も関係ないんだと、自信を持てるようになりました。ワークキャンプ関係者全員に感謝致します。



5) ワークキャンプで見つけた課題(齊藤はるか 会員)

私は大学で自然科学を学んでいるので、このワークキャンプに参加した目的は技術をどうやって伝えるのか、実際に技術支援の場を見てくるということでした。しかし現地の人とは言葉も文化も違って、技術を伝えることよりも、お互いに分かち合うこと、つまりコミュニケーションの重要性を痛感させられました。ただ私たちが現地に行って何かを説明しても、信頼関係なしにそれを伝えることはできないのです。私はコミュニケーションをとるのが下手で本当に悔しい思いをしました。もっと村の人達と理解し合えたらと後悔しています。多分これが今回見つけた私の課題です。日本に帰ってもふれあいやコミュニケーションを大切に、人として豊かになれればと思います。

6) 生涯初の異文化体験(高橋直也 会員)

当初、私は ERECON の活動の詳細を知らぬまま、このワークキャンプに参加しました。実際に現場での活動を目にしてみると、農学系の活動を主としており私が大学で勉強している経済、経営学系の知識は全く生かせないと感じていました。しかし、農薬の購入コスト削減や有機農業による従来型農業との差別化戦略が見込めることに気が付きました。また現地の子供達がものすごく元気で、今の自身の日本での生き方に反省するとともに、大きなパワーをもらいました。最後にお世話になったスタッフの方々にお礼申し上げます。